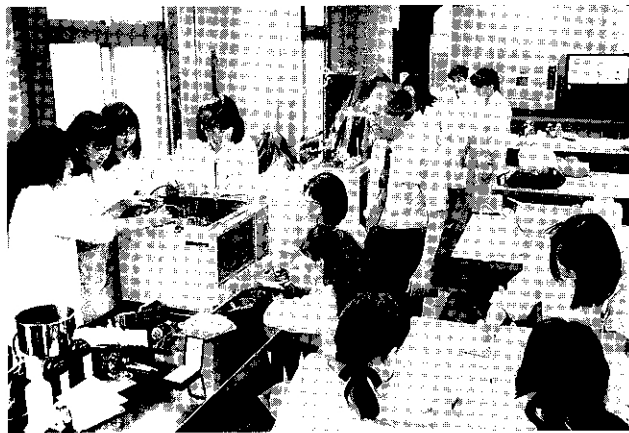


RI*WAC

Research Institute for Women and Careers

日本女子大学現代女性キャリア研究所

RIWAC 管理番号	RJO0033
調査タイトル	本学卒業後の略歴 (進学・就職・結婚・社会活動・ライフワーク等)
論文／雑誌名	3「旧制・新鋭・通信教育—卒業後の社会的活動領域」 (Ⅳ「家政学部卒業生の社会的展開」の一部)『日本女子大 学家政学部 100 年の歩み』
著者	宮崎礼子
掲載ページ	pp.163-169.
発行年	2006.05
出版社	日本女子大学家政学部 100 年研究会



被服学科（被服材料学実験）1989年



家政経済学科（経済学・生活論演習）
1995年



家政学部を考える会シンポジウム 2000年



家政学部共通（コンピュータ）2000年

目次

はじめに	江澤郁子…………… 3
I 創立者成瀬仁蔵の家政学部構想	一番ヶ瀬康子…………… 5
II 家政学部の教育内容およびその変遷	
1 旧制	館岡孝、赤塚朋子…………… 10
2 新制	宮崎礼子、赤塚朋子… 26
3 通信教育課程	赤塚朋子…………… 85
III 家政学部の卒業生実態調査からみる家政学部像	
1 大正期および昭和前期の本学卒業生に対する調査から	真橋美智子… 95
2 新制家政学部卒業生に対する調査から	沖田富美子、塚原典子… 111
3 通信教育課程卒業生に対する調査から	真橋美智子… 142
4 家政学研究科修了生に対する調査から	佐々井啓… 147
IV 家政学部卒業生の社会的展開	
1 学位取得者に関する調査	館岡孝… 153
2 外国人留学生について	大野静枝… 161
3 旧制・新制・通信教育一卒業後の社会的活動領域	宮崎礼子… 163
V 今後の家政学部に向けて	
1 学部として	大野静枝… 171
	江澤郁子
	佐々井啓
2 各学科より	
児童学科	石井光恵… 173
食物学科	丸山千寿子… 174
住居学科	定行まり子… 175
被服学科	大塚美智子… 177
家政経済学科	堀越栄子… 178
おわりに	江澤郁子… 181
資料 日本女子大学家政学部 100 年の年表	赤塚朋子… 183

表Ⅳ-4 外国人留学生旧・新所属別卒業者数

国名	旧 制						新 制								計 (名)
	家	師	家	家	家	計	食	食	児	住	被	経	社	通	計
	家	師	1	2	3	(名)	物	管	童	居	服	済	会	芸	(名)
大韓民国	1	1	5	19	1	27	0	0	3	1	8	0	1	0	13
中華民国	0	0	5	4	3	12	3	3	7	4	4	1	0	1	23

2) 中華民国留学生について

旧制度の1935～1945年の間の卒業生総数は12名で、各科別の在籍は表Ⅳ-4 にみられるように家政1 類が多い。本調査を中心になって進めていただいた桜楓会支部長の旧43 回家政2 類（1945年卒）彭邱素沁氏は、国内各地域に在住する卒業生の方々への連絡の労をとって頂いたが、思うように情報が得られずご苦労が多かったようである。氏の調査の結果を返信の内容から察すると以下のようにまとめられる。

旧制度の卒業生は在学中の3 年間は大学の教育、寮生活の経験は先輩のよき指導によって有形、無形の生活の資源を得た。と述べており、卒業後は帰国して結婚、家庭で「相夫教子」に専念した方が多い。

社会的活動で貢献した方は、家政学部ではないが、旧30回国文（1932年卒）は、婦人会の創始者として女性の生活向上のために活躍されている。家政学部卒業生としては旧39回家政2 類（1941年卒）楊劉秀華氏は、国際文化基金会理事として活躍され、また本調査の推進役として労をとられた彭邱素沁氏は、国立台湾師範大学副教授、中華家政学会8 代、20代会長を務め、中華民国の家政学会発展のために貢献されている。

新制度の卒業生は、世界第二次大戦後（1961～1998年）に留学生として来日し、総数23名で、児童学科の就学生が7 名で最も多い。韓国と同様に新製の卒業生と旧製の卒業生との交流は少なく、やはり情報が少ない。社会的活動として以下の情報が紹介されている。

新16回食物（1966年卒）林蔡玉瑤氏は、明萬実業会社社長、新30通芸（1981年卒）呉麗娟氏は、台南女子技術学院教授に。大学及び大学院において学んだ方では新29回被服（1980年卒）邱魏 津氏は、大学院博士課程に進学し学術博士を取得（1966年）し、国立屏東科技大学副教授。大学院7 回食物（1969年卒）頼 愛姫氏は、実践女子大学教授、同じく大学院7 回食物（1969年卒）李 澄美氏は、中国標準草書学会理事を務めて活躍している。

3. 旧制・新制・通信教育一卒業後の社会的活動領域

家政学部卒業生の社会的活動領域の検証を意図して「有識者」による「本学卒業後の略歴（進学・就職・結婚・社会活動・ライフワーク等）」に対する回答から、旧制・新制・通信教育課程について、学科別にまとめた。

この有識者調査の旧制の対象者は（1）桜楓会名簿から、（2）本学非常勤講師経験者、（3）聞き書きの会、（4）本学家政学部専任教員退職者

新制の対象者は（1）各学部からの推薦（教職やその科の資格等を考慮して）、（2）家政学部卒業生で本学の非常勤講師経験者、（3）各学科の縦の会（卒業生の会）歴代会長、（4）聞き書きの会会員、（5）家政学部卒業生で本学家政学部専任教員の退職者
通信は各学科からの推薦による。

郵送による回答は、旧制27名、新制84名、通信7 名である。

1) 旧制

27名の学科、回生、卒業年月は表Ⅳ-5 である。

表Ⅳ-5 旧制有識者調査回答者 27 名所属学科・回生・卒業年月

卒業 学科 旧制 回生	家 政 学 部	師 範 家 政 学 部	大 学 本 科 理 学 部	家政学部			家政科					卒業	
				一 類	二 類	三 類	育 児 科	保 健 科	管 理 科	物 理 化 学 専 攻 科	生 物 農 業 専 攻 科	年	月
25	◎											1928	3
26												1929	3
27	○	○										1930	3
28		○										1931	3
29	◎◎											1932	3
30		◎○	○ 一回生									1933	3
31												1934	3
32												1935	3
33					◎							1936	3
34												1937	3
35												1938	3
36												1939	3
37												1940	3
38					○							1941	3
39												1941	12
40					○							1942	9
41				○	◎○	◎						1943	9
42				○	◎○							1944	9
43				◎	○							1945	9
44												1946	3
45							○	◎	○		◎	1947	3
46									○			1948	3
47												1950	3
48												1951	3

◎ 略歴紹介

三年制

卒業年が昭和ひとけた（1928～1934年）が9名、家政学部一類、二類、三類時代の1935～1946年卒業者が12名、そのうち10名は1940年戦争末期の9月くりあげ卒業者である。戦時下学制による3年制の家政科時代卒業者の旧44～46回生が6名で、回答は全学科にわたり寄せられた。

① 1928～1933年卒業（旧25～30回生）の9名は90歳前後で今なお社会的活動をし、三綱領が自分の中に生きていると答える。定年まで教職にあった人4名、うち子育て中も続けた人は2名。

卒業論文で「消費組合」をまとめ、1930年卒業後、先輩の奥むめお氏と共に日本ではじめての消費組合を世田谷につくり、さらに労働者の為の託児所を桐ヶ谷に作った。戦後NHK放送部に正職員第一号で採用された人もいる。保育所、幼稚園の設立や地域活動で婦人、子ども、家庭生活の向上のため在学中に学んだ基本がおおいに役立ったと答えている。以下略歴を紙面制約上3名のみ紹介する。

K氏（旧25回） 1929年から6年間本学図書室勤務。その後3年間結核予防協会（東京市外郭）書記。27歳で結婚。31歳長男出産。疎開地で戦後婦人学級、幼稚園設立など。60歳で夫と死別。共働きの息子夫婦と同居し2人の孫の世話を担当。現在は健康太極拳の教室を主宰し、地域での普及活動をしている。

Y氏（旧29回） 卒業翌年結婚。三男二女の子育て。「夫が学者故に」子供5人の教育費のため教師になるべく35歳で山梨大学と本学通教で免許を得る。40歳で県立第一のち第二高校教諭。1962～1966年、山梨県指導主事。1966年から山梨英和学院短大。72歳で退職。その後2000年88歳まで同学院理事長。退任後、現在は茶道を教えている。

I氏（旧30回） 1933年卒業。その4月から1960年まで高等女学校（戦前）、高等学校（戦後）教諭。1937年、結婚。長男長女誕生。1945年、夫が戦災で死亡。1960～1968年、新潟県指導主事。1969～1983年、女子短大勤務、退職。大学婦人協会、消費者協会、女性会議、日中友好親善協会、日米協会などで現在も活動。

② 一類、二類、三類の時代は旧33～43回生まで12名。うち定年まで教職4名。市議会議員退任後、社会福祉事業・活動3名。評論・著述家2名。教会牧師、財団法人理事長、株式会社代表取締役社長各1名。この12名のなかから4名の略歴を紹介する。

家政学部二類のはじめての卒業生である旧33回生。終戦をまたいで1945年9月卒業の一類43回生。（制度上は1945年9月卒業。すでに8月に終戦となったので9月以降1946年3月まで補習授業が行われた。桜楓会名簿は1945年9月卒業とある。）戦雲立ちこめる1944年のくりあげ9月卒業の二類旧42回生。同じく繰り上げで前年1943年9月卒業の三類旧41回生。

I氏（旧33回二類） 1935年卒。卒業の年結婚。戦後の1948年、地方公務員（秋田県）。児童福祉司。1985年で県を退職。1986～2000年まで5期市議会議員。その間、厚生委員

長、決算委員長など。現在、障害者福祉授産場理事長。自治功労章、勲五等瑞宝章、その他褒賞授章。

K氏（旧43回一類） 1945年、9月卒業（翌1946年3月まで補習授業）。1946年4月長野県立高等女学校教諭。1949年、長野県農政部生活改良普及員（一期生）。1964年、農政部農業改良課生活改善係長。1972年、北佐久農業改良普及所生活改善課長。1982年、佐久市婦人団体連絡会長。1983年、長野県職退職。1983年、県社会福祉審議会委員。1992年、障害者通所授産施設設立。同年、県知的障害者育成会会長。1993年、佐久市議会議員。1999年、退任。現在、知的障害者通所施設の運営に当たる。

M氏（旧42回二類） 1944年9月卒業。終戦まで海軍技術研究所勤務（在学中から学徒動員で働く）。1947年4月から1年間、千葉県の新制中学校教諭。その後GHQの検閲機関に勤務中に結婚。3人の子育て、地元のPTA役員や民生委員。地域活動を行う。日本母親大会に参加する中で新日本婦人の会結成にたずさわる。1983年から3期12年間、茅ヶ崎市議会議員に当選。退任後は地域の自治会長、社会福祉協議会の役員、重度障害者施設の社会福祉法人「翔の会」後援会長。自宅の敷地内に地域活動センターを設立。高齢者福祉の支援団体、介護の会「まなみ」の役員で、自宅敷地内に訪問介護センターを設けボランティアの育成にあたっている。

N氏（旧41回三類） 1943年9月卒業。戦時中は国鉄新宿駅勤務など。戦後、国会議員秘書－主婦連合会事務局員－事務局長－副会長－会長－参与。1956年、結婚。（財）主婦会館常務理事－理事長（現職）。全国女性会館協議会会長。国際婦人年連絡会世話人。ライフワーク：消費者運動、女性会館活動、女性問題等。

以上、戦時下の息苦しい、厳しい制約下にあっても「基礎」、「基本」を学び取れる教育を受けとめていること、三綱領が生きる背骨となっている。

③ 旧45～46回生の6名は1947、48年卒業だから今は70歳代半ば、現職にある人は1名（教職）、あとの5名はすでに職業・公職を退任しているが、それぞれ社会的活動にわが道を歩いている。そのなかから旧45回保健科と家政理学科生物農芸専攻の2名を紹介する。

K氏（旧45回保健科） 1947年卒。1949年、日興証券婦人部入社（証券会社初の婦人部）。1953年、結婚退社。1960～1964年迄ブエノスアイレス、サンフランシスコ、カラスヘ夫に同伴し駐在、子育てをする。1973年頃より主婦連内結婚相談所で2年間相談業務。1974年、東京家庭裁判所調停委員。2000年退任（27年勤続）。1997年秋、藍綬褒章授章。

H氏（旧45回家政理学科生物農芸専攻） 1947年卒。福井県立高校教諭。県指導主事。福井県退職。『家庭科教育』誌編集長。ウィ書房設立、代表取締役。『新しい家庭科We』発刊。大学非常勤講師。「家庭科の男女共修をすすめる会」、「男女平等をすすめる教育

全国ネットワーク」世話人。「響きの会」主宰。

以上、旧制27名のうち9名に登場していただいたが、各ステージにおいて本学家政学部卒業生としての社会的な活動が展開され、それが各人の人生に一貫しているのが明らかである。

2) 新制

回答者84名を学科別に職種等で分類し、以下に列記する。教職の他は各科毎に特色が示されるように、そのままに記し、事例的に各科1～2名の略歴を紹介する。

児童学科 12名。教職は幼稚園3名（うち園長2名）、高校1名、短大1名、大学1名。幼児教育（塾）、カウンセラー、（宗）代表役員各1名。

食物学科 15名。教職は短大4名、大学6名。社会教育1名。栄養士2名。研究所、ベターホーム協会リーダー各1名。

住居学科 13名。教職は短大1名、大学3名、専門学校校長1名。（株）住建設計勤務1名。設計・建築士事務所主宰3名。画家、イラストレーター、調停委員（建築問題）、進学（博士課程）各1名。

被服学科 18名。教職は短大6名、大学4名、高校1名、専門学校1名。（株）エフシーゼー総研、（株）テキスト、雑誌編集、弁理士、（株）代表取締役社長、聞き書きの会会員各1名。

家政理学科一部 6名。教職は短大、大学、高校各1名。研究所3名。

家政理学科二部 5名。教職は短大2名、高校2名。住まいと景観デザイナー1名。

家政経済学科 12名。教職は短大2名、大学、中学各1名。公務員2名。国民生活センター、銀行総研、デイサービスセンター所長、コミュニティサポート研主宰各1名。（株）東京電力2名。（うち消費生活アドバイザー資格取得者6名。）

社会福祉学科 4名。大学2名、短大学長1名。社福法人常務理事1名。

H氏（新4回児童学科） 1954年卒。結婚、二人の子育ての後、1964年私立幼稚園教諭主任3年余。夫の転勤で水戸市に移転。短大幼児教育科非常勤講師、同付属幼稚園主任を7年間。その間、茨城県私立幼稚園連合会研究委員長。1975年に鎌倉市に移転。私立幼稚園講師5年。この間に統合教育を経験し、自閉症をはじめ多くの症例を知る。1984年、米国にて外国人向け乳幼児（発達遅滞）早期教育の講習を受け、帰国後日本ボーテージ協会鎌倉支部設立。1989年横浜鎌倉支部相談室を開設、現在に至る。1979～2000年まで江戸川区内総合病院小児外来のカウンセラー。

S氏（新24回児童学科） 1974年卒。東京都文京区立駒本小学校教諭、（財）波多野ファミリスクール帰国児国際学級講師、園児開発教室講師。結婚後は家庭教師や小規模

な塾の講師等。日本女子大学卒業生による聞き書きの会活動。

H氏（新16回食物学科） 1966年卒。雪印乳業宣伝部に1年半勤務。その後14年間子育て。1981年、（財）ベターホーム協会リーダー会員として常勤。1999年、農林水産省農林物資規格調査会専門委員（JAS部会）。

H氏（新22回食物学科管理栄養士専攻） 1972年卒。同年、東京都職員として採用、足立保健所勤務。1973年、立川保健所昭島保健相談補。1981年、三鷹保健所。1986年、府中病院栄養科主任。1988年、公衆衛生部保健栄養科調査係長。1994年、松澤病院栄養科長。1994年、神経病院栄養科長。1996年、梅ヶ丘病院栄養科長。1999年、府中療育センター栄養科長。現在に至る。

T氏（新6回生活芸術科住居専攻） 1956年卒。住宅誌「モダン・リビング」編集。1958年、結婚。仕事はアルバイトの形で続ける。出産・育児の時期は家事に専念。コラムの執筆を多少続ける。PTA活動、教育問題のボランティア。昭和60年代（1985～1989年）に再び建築雑誌のフリーエディター。地域では教育環境問題のボランティア。現在は、十数年に及ぶ建築問題の調停委員。

O氏（新15回住居学科） 1965年卒。3年間学科助手。設計事務所勤務。1974年まで夫転勤で地方へ。二人の子育てで仕事休業。1974年に設計事務所を自営。大学非常勤講師、まちづくりの会、ごみ問題の会の地域活動、住宅相談を続けている。

N氏（新16回被服学科） 1966年卒。同年、特許庁審査第三部繊維機械の審査官として入庁（国家公務員の技術部門に被服部門が新設）。1971年、退庁。1967年、結婚。数年間は二人の子育てに専念。1979年、弁理士試験合格。そののち夫の転勤に同行、カナダ・トロントで4年間。1984年、弁理士登録後、特殊事務所で研修。1988年、独立して国際特許事務所設立。

K氏（新24回被服学科） 1974年卒。同年、（株）小杉産業入社、品質管理室。1975年、結婚。夫の転勤で大阪へ。一男一女出産、育児に専念。1985年、消費生活アドバイザー資格取得。1987年、（株）ライオン家庭科学研究所非常勤嘱託、現在に至る。1995年、繊維製品品質管理士資格取得。専門学校講師等を兼ねる。

U氏（新28回家政理学科一部）1978年卒。東京工業大学大学院修士・博士課程修了（理学博士取得）。日本学術振興会奨励研究生、東京都臨床研を経て、1988年、帝人（株）入社。1991～1992年まで米国スクリプス研究所留学。現在、帝人（株）創業研究所にてグループリーダー。1984年、結婚。1986年、出産。

T氏（新23回家政理学科二部） 1973年卒。1976年、東京農工大学大学院農学研究科（自然保護学）修士課程修了。1976年、白百合学園中・高等学校教諭（理科）。1977年、結婚・退職。1981～1983年、白百合学園中・高非常勤講師。1986年、専任教諭となり現在に至る。

S氏（新18回家政経済学科） 1968年卒。公務員試験を受け、1968年、神奈川県で開設されたばかりの横浜消費生活センターに配属。厚木センターを経て、県庁消費生活課で消費者行政に23年間取り組み、その後衛生行政、女性行政、福祉行政を経て、2000年退職。現在、小田原女子短大で家政学、消費者問題等を講義。1973年、結婚。子供二人。共同保育園設立、学童保育所づくりにかかり、PTA等地域活動の中で子育てに務めた。

S氏（新29回家政経済学科） 1979年卒。同年、東京電力（株）ヒープ候補生で入社。1982年、原子力業務部、東電初の女性原子力PA担当者。1988年、企画部CI推進事務局。1990年、東京東支店支店長付。1993年、東電上野支社課長（東電で初の現業機関女性課長）。1996年、東京東支店営業部副部長。1999年、経済産業省外郭団体（財）省エネルギーセンター派遣。資格取得：1980年、低圧電気工事士。1982年、消費生活アドバイザー。

O氏（新5回社会福祉学科） 1955年卒。中学校社会科教諭及講師、短大学生相談室、区家庭相談室、家庭裁判所調停委員、厚生省社会保険審査会参与、社福法人日本国際社会事業団常務理事、いのちの電話相談員及理事、法務省矯正保護審議会委員、社福法人愛の家理事など。

以上、各科1～2名の事例紹介ではあるが、卒業生が専攻の特色を生かした社会的活動を生き生きと展開している姿が示されている。

3）通信教育

回答者7名は学科別に児童学科4名；教師養成センター実践講師（通15回生 1967年卒）、教育センター教育指導員（通19回生 1971年卒）、童話作家（通11回生 1963年卒）、大学（看護学）各1名。食物学科2名；アジア保健所退職現在フリー、大学（栄養学）各1名。生活芸術科1名；緋織伝統工芸指導（通11回生 1962年卒）。

上記の中から、各科1名を事例紹介する。

A氏（通11回児童学科） 1963年卒。1968年「車のいろは空のいろ」日本児童文学者協会新人賞、野間児童文芸賞推奨作品賞。1979年「ひつじぐものむこうに」サンケイ児童出版文化賞。1981年「こがねの舟」旺文社児童文学賞。1983年「ちいちゃんのかげおくり」小学館文学賞、サンケイ出版文化賞。1986年「ぼんぼん山の月」絵本日本賞。1989年「おっこちゃんとタンタンうさぎ」野間児童文芸賞。1990年「だれもいない？」ひろすけ童話賞。

K氏（通11回食物学科） 1962年卒。1968年、日本女子大学大学院修了（食物・栄養学専攻）。1971～1976年、ドイツ留学。1978～1989年、日本キリスト教海外医療協力会の派遣ワーカーとしてインドネシア・バングラディシュへ滞在。1989年、帰国後アジア保健所勤務。1998年11月よりフリー。

H氏（通11回生活芸術科） 1962年卒。結婚し、二人の子育て中に入学。通信卒業後、高校教諭。退職。現在は緋織伝統工芸指導。

以上、通信教育課程の場合、回生が同じでも年齢がまちまちでH氏は68歳と記入されている。A氏は下の子供が幼稚園になって入学し「学びたい思いでいた者に、大きな扉をあけていただき感謝の思いでいっぱいです。この扉をどうぞいつまでもあけておいてください」と。このような自分が受けた感謝を社会的に還元する活動が、7名の回答に投影されている。

日本女子大学家政学部100年研究会

江 澤 郁 子 (研究代表者・名誉教授・戸板女子短期大学学長)

一番ヶ瀬 康子 (名誉教授)

館 岡 孝 (名誉教授)

大 野 静 枝 (名誉教授)

小 川 信 子 (名誉教授)

宮 崎 礼 子 (名誉教授)

沖 田 富美子 (住居学科教授)

佐々井 啓 (被服学科教授)

真 橋 美智子 (教育学科教授)

赤 塚 朋 子 (宇都宮大学助教授)

塚 原 典 子 (新潟医療福祉大学助教授)

日本女子大学家政学部100年の歩み

日本女子大学家政学部100年研究会 編

2006(平成18)年5月20日 初版第2刷発行

発行者 日本女子大学家政学部100年研究会

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

印刷・製本 有限会社 三秀美術印刷